【恨みの霊】

・　恨みの霊は、恨みを晴らす機会を狙っています。
　恨む家系をわざと繁栄させて、その家庭で一番幸せな時期を狙って奈落の底に落とす場合もあります。

・　強い恨みを持っている霊は、恨みを晴らす事を第一に考えているので、自分が救われたいとは思っていません。
　天国に行けると話しても、自分は悪い事をしているから、天国になんか行けっこ無いと諦めている霊が多いです。

・　不幸現象を起こしている霊団は《兵隊》《小隊長》《中隊長》《大将》という具合に４層に分かれていて、大将に位置するのは御神霊です。
　元の霊格が高い方には、御神霊の障りがあるのです。

・　上に行く程、恨みの想念は強くなりますが、大将である御神霊の障りがない方の場合には、恨みの霊団は３層で構成されています。
　上層にいる霊団は直接手を下さないで、邪な思いを持つ霊達《兵隊》を集めて攻撃指示を出しています。
　兵隊を救うと小隊長、小隊長を救うと中隊長という具合に順番に降りて来て障りをもたらします。

・　恨む対象の方が肉体を失っていて、その方が自分と違う霊層界にいる場合には、障ることが出来なくなります。
　違う霊層界にいる他の霊には障れませんが、肉体がある方に対してなら（対象の霊格の高い低いに関係なく）、どの霊界（地獄）にいても障ってくることができます。
　つまり、恨む対象の方が、また新たに肉体を持って生まれてくるまで、長い間霊界で待っているのです。
“恨まれる側”が苦しい思いをするのは、長くても肉体の寿命である数十年ですが、“恨む側”は、肉体を失った時から何百年間も辛い状態が続いているのです。
　そして、もう少しで命が取れるという時には、更にとても辛い状態になります。

・　恨む対象の方が、不満を持ったり、他人を責めたりしていると、恨みの霊と波調が合ってしまうので、強く攻撃を受けることになります。
　逆に、その方が心を切り替えて感謝の生活を送っていると、恨みの霊とは波調が合わないので、恨みの霊は攻撃できなくなってしまいます。

・　不幸な事も、特別に幸福だと思える事も無い人生は、守って下さる方々のご守護の力が、邪魔をする方々より強い状態です。
　つまり“何もない”ということは、本当のご守護を戴いているという事なのです。

恨みの霊と恨まれている方の関係は、何代か辿ると仲間や友達で、とても親しい関係だった場合が多いのです。
今の時代がカルマの清算期なので因果の元を辿ると、今、恨んでいる側が大元の加害者です。